

かお・人・interview

2023年10月30日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
佐伯河川国道事務所 所長

永田哲也氏

NAGATA Tetsuya

大分県佐伯市に位置する佐伯河川国道事務所は、番匠川や国道57号などの維持管理を行い、地域経済の発展と生活の安全を支えている。中心事業の竹田阿蘇道路が開通すれば、大分と熊本両県の交流が活性化されると地域住民の期待は多い。河川に関しては、番匠川の流域治水計画は河川協力団体と連携し水害軽減を目指す。建設業が抱える課題や働き方改革など、今後取り組みについて永田所長に伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

新たな勤務地への転勤は、その町の歴史や文化を通して、また、地域や利用者の方々に接することで、「地域力」を感じさせられます。国土交通省の出先機関の使命は、管内のインフラ施設の整備・管理をしっかりと対応することです。その過程で地域の課題や要望を解決し、地域のさまざまな活動に対し、協働して対応することが必要不可欠です。



▲佐伯市内を貫流する一級河川「番匠川」

約4年にわたるコロナ禍で地域のつながりを育む活動が制限を受けました。しかし、現在はこれらの制約が緩和され、人流・物流の動きが再開しています。自治体や地域、そして地域建設業の皆さまとお会いするたびに、国に対する期待感をひしひしと感じるとともに、さまざまなご指摘に対し、一層真摯に受け止める必要があると感じます。事務所長として、自分に課せられた責任や義務をしっかりと果たして行きたいと思っています。

Q大分県や九州とのかかわり

建設省(現国土交通省)入省後、大分県、そして東九州地域に赴任したのは、今回が初めてですが、九州地方整備局道路部在籍時は、長く九州管内の道路調査・計画に従事していました。そのため、当事務所管内で展開されている道路事業について、事業着手までの間、調査・計画の一部を担当していたこともあり、現在の事業進捗に対して感慨深いものがあります。

赴任先に関しては、それぞれ思い出がありますが、自分の仕事

の原点でもある現在の長崎河川国道事務所で担当した雲仙普賢岳災害に伴う道路事業です。事業着手までのルート検討、測量及び地質調査、そして関係機関協議、地元設計協議など、わずか半年間で事業着手まで全ての行程に携わりました。2つ目の事務所となる雲仙復興事務所では、引き続き、工事発注の担当に従事。これらの業務で「道路事業の流れ」を短期間で学び、その後の行政力を身に着ける基礎となりました。非常に貴重な経験だったと思います。

Q事務所の紹介

当事務所は、大分県の南部に位置し、南西部はくじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれ盆地状をなすとともに平成29年には、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークにも登録。豊かな水と緑あふれる自然に恵まれ、農業や観光が基幹産業です。また、東南部は、豊後水道に面しており海岸はリアス式海岸で、瀬戸内海型と南海型で比較的温暖な気候に恵まれ、農業、水産業が主要産業です。

河川事業では、九州を流れる20水系の中で特に水質の良好な川であり、豊かな自然環境の中で佐伯市内を貫流する一級河川である番匠川水系の国管理区間(33.8km)での整備と維持管理を行っています。道路事業では、国道10号、国道57号、中九州横断道路の管理延長約



▲豪雨災害状況(平成29年9月洪水)

107kmを維持管理し、地域間・都市間の連携強化や地域の交通課題を解消するための改築事業及び交通安全対策事業を行っています。

また、事務所組織は、事務所幹部、6課、2出張所で構成し、職員数は期間業務職員まで含め約70名です。佐伯市内の本事務所のほか、河川の佐伯出張所及び道路の竹田維持出張所で現場の管理を担っています。

Q今年度の事業概要について

河川事業は、佐伯市池田地区において、令和2年度より耐震対策として堤防補強を行い、番匠川水系久留須川においては、令和3年度より河道掘削・樹木伐採を行っています。令和5年度においては、引き続き、番匠川下流部の「蛇崎地区」において堤防耐震対策を行ってまいります。また、大分県と連携して「番匠川水系河川整備計画」の見直しを行っており、平成29年9月の台風による洪水の状況を踏まえて、河川整備計画

の変更手続きを進めているところです。河川管理施設の老朽化対策として、洪水や津波等が発生した場合に施設の機能が発揮されるよう、適切に点検や河川巡視、必要に応じて修繕や更新を行っています。

道路事業は、大分市と熊本市を結ぶ中九州横断道路の一部を構成する「国道57号竹田阿蘇道路」として、沿線地域の産業発展や地域活性化に寄与するとともに、災害に



▲佐伯市蛇崎地区の堤防耐震対策



▲竹田インターチェンジ周辺の工事状況



▲中九州横断道路「竹田阿蘇道路」の整備状況

し、住民・企業等や河川管理者を含め、それぞれの特性を活かし、番匠川流域とその周辺の地域の活性化を図るために、連携して取り組むことが重要です。番匠川水系では1団体が河川協力団体の指定を受けて、活動しています。

また、近年の気候変動による水害の激甚化、頻発化に備えるため、これまでの治水対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を計画的に推進。当

強いネットワークの構築を目的に平成31年度より事業に着手し、当事務所においては、竹田インターチェンジから熊本県境までの事業を実施しており、現在、調査設計、用地買収、埋蔵文化財調査、工事を進めているところです。管内の4カ所において、交通課題の解消のための交通安全対策事業を展開しているところです。

また、道路施設の老朽化対策として、重大な損傷に至る前に対策を実施する予防保全を進めるため、計画的な点検、診断、措置を行い、道路施設の長寿命化に取り組んでいます。

Q 地域との連携・協働について

河川については、地域協働による河川管理を目指

事務所としても河川協力団体と情報共有を行いながら、「できることから始めよう」をキャッチフレーズに協働して治水対策に取り組んでいるところです。

道路については、管内には11の道の駅が点在し、地域活性化の拠点として活かす取り組みが進んでおり、個々の魅力のある情報を発信し続けています。令和5年度は、「道の駅」制度発足から30周年を記念した行事も開催が予定。当事務所としても協働して盛り上げていきたいと考えています。

また、管内には日本風景街道の日豊海岸シーニック・バイウェイ(通称:蒲江・北浦大漁海道)ルートがあり、大分県佐伯市と宮崎県延岡市を結ぶ国道388号を中心に、複数の県道、広域農道にまたがる周辺地域の



▲河川協力団体との流域治水に関する意見交換(令和5年4月)



▲佐伯市内の小学校への出前講座(令和4年9月)

取り組みにより形成され、現在では、約30の地域民間団体を中心に、各方面で地域活動を実施しています。当事務所もさまざまな活動を通して、連携し取り組んでいきたいと思ひます。

道守大分会議とは、毎年開催される「道の駅」や小学校主催の道路清掃の地域活動に共に参加し、日本風景街道、道の駅と連携した「3つの輪」の取り組みを展開しているところです。また、ボランティア・サポート・プログラムとして、地域や企業の皆さまに道路の美化活動等の実施団体になっていただき、地元自治体、道路管理者とともに快適な道づくりを進めています。

に重要な役割を担っており、災害対応では、平時からの現場点検、事前準備、発災直後からの現場確認、その後の応急復旧への迅速な対応に感謝いたします。また、本復旧に際しても多大なご理解とご協力、心よりお礼を申し上げます。

一方、地域建設業界では高齢化、担い手不足、資材高騰、機材入手の困難など、多くの課題が存在しています。現場を預かる事務所としては、引き続き、企業の皆さまとの意見交換等を通じてコミュニケーションを図り、建設業界の働き方改革も含めた課題の改善に対して、連携しながら積極的に取り組んでまいります。



▲道の駅の清掃活動(令和4年4月)



▲国道57号竹田市菅生地区の清掃活動(令和4年6月)

Q趣味や健康法について

運動不足解消のため、毎日約4kmの距離を歩いて通勤しています。体を動かすことは苦にならないので、時間があるときには、番匠川沿いをジョギングすることもあります。意識的に体を動かすことで、季節の変化を楽しんで、心身をリフレッシュしています。

趣味はスポーツ観戦と観葉植物です。子供がラグビー部に入っているため、特にラグビーの試合を観戦するときは、応援に力が入ります。最近家族の影響で観葉植物に興味を持ち始めました。個性豊かな多肉植物など、成長過程を眺めるだけで楽しい気分です。週末には関連のウェブサイトを見て、気になる植物をチェックしています。

プロフィール



出身地：長崎県
 生年月日：昭和44年11月10日(53歳)
 H4年4月 建設省入省
 H19年4月 国土交通省 道路部
 道路計画第一課 係長
 H27年4月 国土交通省 鹿児島国道事務所 調査課長
 R2年4月 国土交通省 熊本河川国道事務所 副所長
 R3年7月 国土交通省 道路局企画課付
 (復興庁統括官付参事官付参事官補佐)
 R5年4月 現職

Q地域建設業への要望・メッセージ

地域建設業の皆さまには「地域の守り手」として非常